



細江カトリック教会だより



初秋（8、9月）号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

教会に「恋する」と教会に「留まる」

教会は、信仰の拠り所であり、神聖な場所として尊ばれています。また特に人生の困難な時期や人生の岐路に立たされた時、教会は多くの人にとって、安らぎや希望を見出す場所です。このように、教会に「恋する」こと、つまり教会の雰囲気やメッセージに惹かれるのは簡単なことですが、教会に「留まる」こと、つまり長期的に誠実に信仰を持ち続けることは決して容易ではないと言われています。

教会は、その建築や内部装飾の美しさで多くの人を魅了します。教会建築は、荘厳さと静けさを兼ね備えており、ステンドグラスや彫刻、壁画などは視覚的に圧倒されるほどの芸術性を持っています。これらの美しさは、宗教的な枠を超えて一般の人々に深い感銘を与え、教会を訪れるきっかけとなります。また、ミサの典礼も、厳粛で神聖な雰囲気をもち、多くの人に感動を与えます。そして、忙しい日常生活から離れて、教会で静かに祈り、瞑想することで心の支えや平安を感じる人が少なくないでしょう。特にクリスマスやイースターのミサなどでは、聖歌やオルガンの演奏が響き渡り、独特の精神的な空間を作り出します。そのため、初めて教会を訪れる人々や新たに信仰を持つ人々は、教会の雰囲気やコミュニティの



温かさに魅了されやすいものです。このようなポジティブな体験は、教会に「恋にする」ことを容易にします。

しかし、教会に「留まる」、つまり信仰を持続させ、深めていくことは別の挑戦です。イエスは「私が父の戒めを守り、その愛にとどまっているように、あなた方も、私の戒めを守るなら、私の愛にとどまっていることになる」(ヨハネ 15:10) と語り、信仰における継続的な実践の重要性を強調しています。これは、教会に留まるためには、神の戒めを守り続ける必要があります。

しかし、日々の生活の中で仕事や家庭、趣味など、多くのことに時間を取られ、教会や祈りに向き合う余裕がなくなり、信仰生活に割ける時間が減ってきます。

別の場面ではイエスが「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、私はその人を終わりの日に復活させる」(ヨハネ 6:54) と語った後、多くの弟子たちがその教えに驚き、戸惑い、イエスについて行くのを諦めました。そして、そこでイエスは十二人の弟子に「あなたがたも去ろうとするのか」と問いかけました。ここでは、イエスが自身の教えの難しさや弟子たちの揺れる信仰心に直面した時に、忠実に従う者が誰であるかを問うています。イエスの問いかけは、信仰における決断や継続することの難しさを思い起こさせ、信仰がただの感情的な魅力や一時的なものではなく、深い決意と継続的な努力を必要とするものであることを

示しています。イエスの問いかけに対して、ペトロは「主よ、私たちは誰のところへ行きましょう。永遠の命の言葉を持っておられるのは、あなたです」と答えます（ヨハネ 6:68）。ペトロの応答は、信仰の核心を突いています。彼はイエスの言葉の難しさにもかかわらず、他に行くべき場所がないことを認識しています。この応答は、信仰が理論や理解を超えた、存在の深いところに根ざしていることを示しています。ペトロにとって、イエスは単なる教師以上の存在であり、彼の言葉には命そのものが宿っていると信じていたのです。

ペトロのように、私たちはどこに行くべきか、誰に従うべきかを再確認する必要があります。この問いかけを通じて、私たちは信仰の核心に立ち返り、イエスの教えに忠実であり続けるための新たな決意を持つことができるのです。そして、その愛にとどまり続けるためには、日々の努力とイエスの戒めに従う覚悟が求められます。教会に留まることは容易ではありませんが、それこそが信仰の真の意味を見出し、豊かな人生を築く鍵なのです。また、信仰の仲間と支え合うことも大切です。教会内での友情や助け合いは、信仰の持続において大きな支えとなります。共に祈り、学び、奉仕することで、個々の信仰の旅が豊かになり、試練の中でも教会に留まり続ける力を得ることができ、強くコミットすることができるようになります。信者である私たちが教会に深く結ぶことと教会の存在そのものが、人生の中で何かを求める人々にとっての光となることがあると信じております。



トアン神父

聖体奉仕者と堅信式 7/14 (日)

彦島教会において、聖体授与の臨時の奉仕者集会祭儀司式者と堅信式が司教公式訪問のミサの中で行われました。

☆細江教会の奉仕者(集会祭儀者含む)の方々

塩谷朋子
三井正憲
福永典子
戸村睦美
白浜やよい
林恵子



☆堅信を受けた彦島と細江教会の皆さま



◇感想をいただきました・・・

無事に堅信式を終えることができましたことを、心より感謝申し上げます。これからもカトリックの教えに従い、信仰の道を一層精進していく所存です。式にご協力いただいた皆様、また勉強会において貴重な教えを賜りました神父様、遠方より足を運んでいただいた司教様に深く感謝いたします。

津田将来

堅信を受けて、とても誇りに思いました。勉強する時、はじめは緊張していましたが、彦島教会の友達と一緒に勉強をすすめるうちに楽しくなりました。神様についてもっと知ることができてよかったです。

カスターニエーダ・マリア彩代



教会学校 8/1 (木)

8月1日、日曜学校の夏休み会を開きました。7月に堅信を受けた6年生3人を中心に、ちょうど10人が集まりました。

そのうち3人は細江教会のカスタニエーダ姉弟です。ここ数年続いているこの行事で仲良くなれて、堅信の準備も一緒にすることができました。

今年は木曜10時からのミサから始まり午前中は水遊び、いろんなゲームを考え用意してくれた香織さん。

昼食タイムは大人も子どもたちも楽しみにしている『そうめん流し』。神父様もとても嬉しそうに召し上がっていました。

午後は手話もプラスして「ビリーブ」の歌を練習。子どもたちは学校で手話を習ったらしくとても上手でした。これを敬老会で披露できたらいいねという意見もあり、今計画中です。その後、スイカ割、おやつが終わって、いよいよカレー作りです。6年生の女子、ゆなちゃん、さよちゃんはさすが慣れた手付きで頑張ってくれました。カレーを煮詰めている間、工作をして夕食。みんなで作ったカレーはすごく美味しかったです。

夕食後は中井神父様が「パンの分かち合いのお話し」をテーマに、歌も教えていただきました。その後、花火をして解散。とても楽しく有意義な一日でした。いつも協力してくださる皆さんに感謝です。

隣の教会や教区の教会と手を繋ぐことは、とても大事だと思います。50年前、私たちが小学校の頃は彦島教会だけでも同級生は8名いて、オマリー神父様が電車で長府教会の小学生と一緒に広島での練成会に連れて行ってくださった思い出は、今もとても大切にしています。

子ども達が減っています。何とかそれを防ぎたいと少し焦っています。一年生だったお友達がコロナと戦いながら、もう6年生になっています。どこの教会もそうだと思いますが、中学生になると部活や試験があって教会離れが始まります。私たちの時代もそうでした。この子ども達も教会に戻ってこようと思えるよう、楽しい思い出を一つでも多く心に残してあげたいと思っています。

彦島教会 本島智香



*そうめん流し…楽しかった～～！



*カレー作り…こどもたちは静かに黙々と…



平和の祈りの集い 8/4(日) 18:00

聖ザビエル上陸記念碑前

虹の関門橋を見上げながら

17時ごろのゲリラ雷雨に開催が危ぶまれましたが、それでも傘を差した人たちが集まりはじめるとともに雨は上がり、恵みのような大きな虹が関門海峡をまたぐようにかかり、36人の参加で予定通り18時に開催できました。みんなで「キリストの平和」を歌い、「聖書のことば」「三教会による共同祈願」「平和の祈り」と心をつなげて祈り、最後に「愛に生き、平和に生きる」をみんなで歌いました。

作道神父様による聖書のことば（抄）



「平和の祭典オリンピックが行われているが、毎日のように戦争によって多くの尊い命が奪われている。22年前に建てられた聖フランシスコ・ザビエル上陸記念碑は『平和のため

に祈る集い』の場として多くの方々に親しまれ守られてきました。

ザビエルには『主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない（イザヤの預言 2. 4）』という言葉はどう響いたでしょうか。しかしザビエルの心には、もう一つの言葉がしっかりと刻まれていました。『わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな（ヨハネによる福音書 14. 27）』というイエスの遺言です。

この言葉を信じて多くの善意の人々が平和のため、和解のために働き、自らを捧げてきました。力ではなく愛によって、憎しみではなくゆるしによってもたらされる平和です。小さな一歩かもしれません。しかし、確かな一歩です。ザビエル自身、この真の平和の在りかを伝えるために日本にまで足を運ばれたのです。

平和のために働いた無数の方々、また戦乱によって、はからずも尊い犠牲をささげることとなった多くの方々を思い起こし、わたしたちも、与えられた場で、さらには、出かけて行くことが期待される場で、神が望まれ、実現される真の平和の恵みの器となって働くことができるよう祈りましょう」

聖ザビエル上陸記念碑管理委員会 三井正憲



教会建替え状況 9月中旬



* 聖堂内部



* 教会入口付近

* 坂道から
十字架をみる



編集後記

* 7, 8 月は近年にない暑さでした。9 月に入ってもこの暑さです。皆さま、お身体はいかがですか？これからも気をつけてください。

* 馬関祭「愛のひろば」へ出店する彦島教会の方達の手伝いに参加しましたが、訪れる信徒は少なく残念でした。でも完売して、汗水流した甲斐がありました。福祉へ献金を。

* ベトナム台風災害被災地への祈りと支援をお願いします。

* 一杯 100 円のコーヒーが様々な支援に繋がります。お立ち寄りください！